

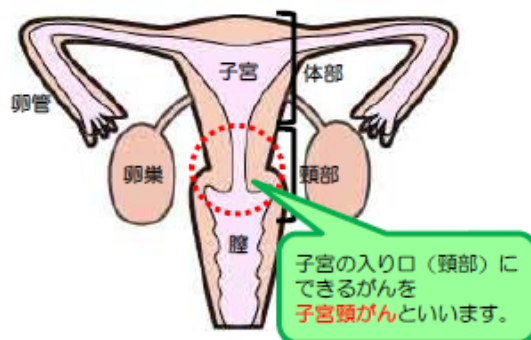
子宮頸がん

ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染によっておもに引き起こされるウイルス性のがんです。早期に発見が極めて重要なため、2年に1回は、定期的な検診を受けましょう。オムロン健康保険組合では、簡単に採取できるキットを準備しています。詳細は健保HPまで。

◆子宮頸がんとは

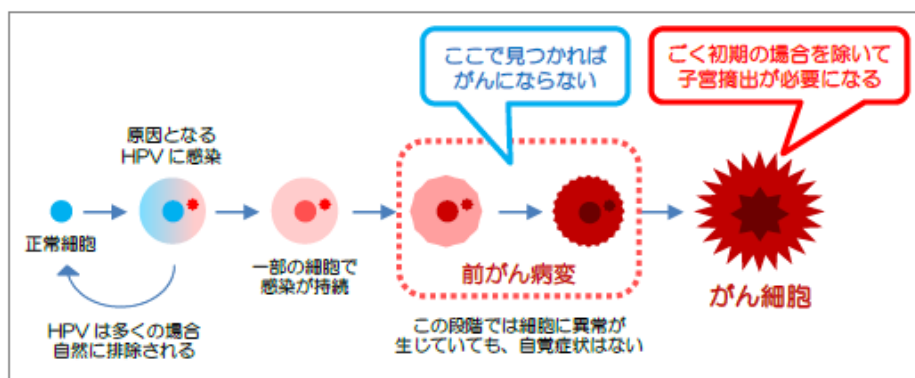
子宮頸がんは、子宮の入り口の子宮頸部とよばれる部分から発生します。子宮の入り口付近に発生することが多いので、普通の婦人科の診察で観察や検査がしやすいため、発見されやすいがんです。また、早期に発見すれば比較的治療しやすく予後のよいがんですが、進行すると治療が難しいことから、早期発見が極めて重要といえます。

子宮頸がんは子宮がんのうち約7割程度を占めます。以前は発症のピークが40～50歳代でしたが、最近では20～30歳代の若い女性に増えてきており、30歳代後半がピークとなっています。日本では、毎年約1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約3000人が死亡しており、また2000年以後、患者数も死亡率も増加しています。



◆病気の原因

子宮頸がんのほとんどは、ヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの感染が原因であることがわかっています。HPVは性交渉により感染し、多くの女性が一生に一度は感染すると言われる、ありふれたウイルスです。通常はHPVに感染しても、免疫



の力でウイルスが自然に排除されますが、約10%の人ではHPV感染が長期間持続します。このうち自然治癒しない一部の人は異形成とよばれる前がん病変を経て、数年以上をかけて子宮頸がんに行進します。

◆定期健診で早期発見！

子宮頸がんは30代後半で多く発症しています。この年代は子育てや仕事で忙しく、また主婦では健康診断を受ける機会もなく、会社の健康診断でも検査項目から外れている場合があります。また婦人科の受診に抵抗があって、検査を先延ばしにしている人も多いと思います。

メスブの子宮頸がん検診、HPV検査は、自分で膣の中に綿棒のような器具を入れて細胞を採取して郵送するだけです。リラックスした状態で検査でき、痛みもなく簡単です。性交経験のある20歳以上の女性は、2年に1回は子宮頸がんの検診を受けることが推奨されています。子宮頸がんは早期にはほとんど自覚症状がありません。定期的な子宮頸がん検診を受けていれば、がんになる前の状態を発見し、治療することが可能です。進行するに従って異常なおりもの、月経以外の出血（不正出血）、性行為の際の出血、下腹部の痛みなどが現れてきます。これらの症状がある方は、婦人科の診察をうけましょう。

定期的な検診で
早期発見・治療を！



記事出典元：メスブ細胞検査研究所